

## 感謝に満ちて

佐々木基之

本年は32名の新人を迎えて夏合宿の間に曲目の大半は歌え、昨年より人數が増えた故か、ハーモニーも厚みが出て楽しい5日間でした。新潟大学音楽科の塙上助教授が2日間にわたって「分離唱」の実習に来られて、学生と共に合唱された姿は尊いものでした。後日、合唱団宛にこんなお便りがありました。「先生を家父長として万事美しい生活振り、学生指揮者のひたむきで謙虚な指導、純正な響き、富士も朝まだき美しい頂きを見せて貰って、心洗われる思いの数々でした。(中略)今後新潟の学生と共に分離唱の発展に取り組んで行くつもりです。(後略)」

小学校から分離唱を——という私の理想の一端の実現のために協力者が現われたことは嬉しいことです。私にとっては五回目の定演、梨大合唱団は私の誇りであり、山梨県の誇りでもあります。拙者「耳をひらく」も40年振りでようやく出ました。団員諸君の分離唱に対する理解と努力に感謝いたします。

## 御挨拶

### 合唱団顧問

昨年の定期演奏会にも、プログラムの御挨拶の中で合唱にとって特に大切なのは、互いに聞きあって歌う気持ちであろう、という私なりの考え方を述べさせて頂きました。このような考え方は、合唱に限らず、どのような分野においても『互いに他を尊重する』思想に通じるものがあり、ともすれば自己の主張だけを押し通す現代の風潮の中でまことに貴重な存在だといわなければなりません。そのせいか、山梨大学合唱団は、団員相互のまとまりがよく、学生のサークル活動につきものの入学、卒業によるメンバーの新旧交代もスムースに行なわれているようです。特に今年度は一年生の団員が多く、入学からわずか半年余りでどのように成長し、昨年以上の成果を發揮することが出来るかどうか、皆様とともに期待をもって聴かせてもらおうと思っております。

## 山梨大学合唱団

■ 第5回東京公演

1977年12月11日(日) P.M. 2:00

上野学園内 石橋メモリアルホール(上野駅浅草口)

■ 静岡公演

1978年3月14日(火) P.M. 6:30

静岡県民会館大ホール